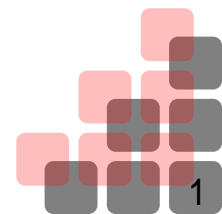




宗像市の家計簿

(令和2年度決算)

宗像市経営企画部財政課



宗像市の各会計と決算額について

市が仕事をするために必要なお金を管理する財布を「会計」といいます。

一般会計

教育・福祉や道路・公園の管理など、
市の基本的な行政サービスを行います。

特別会計

特定の収入で特定の事業を行います。
国民健康保険や介護保険の事業を行う会計などがあります。

企業会計

主に利用者からの料金収入で事業を行います。
下水道事業を行う会計があります。

令和2年度決算額

(億円)

区分	歳入	歳出	差引
一般会計(1)	487.8	475.1	12.7
特別会計(6)	203.1	198.1	5.0
企業会計(1)	42.9	46.5	▲ 3.6
合計	733.8	719.7	14.1

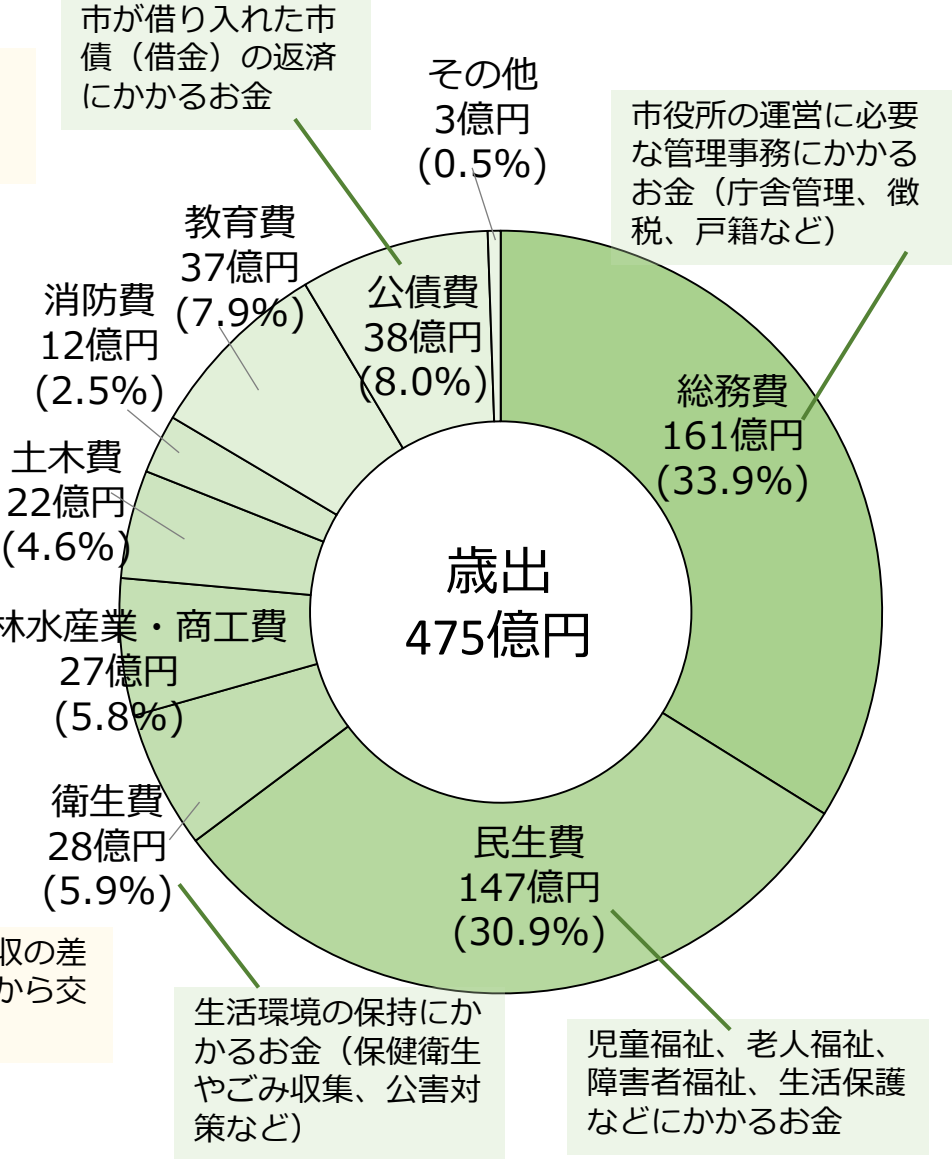
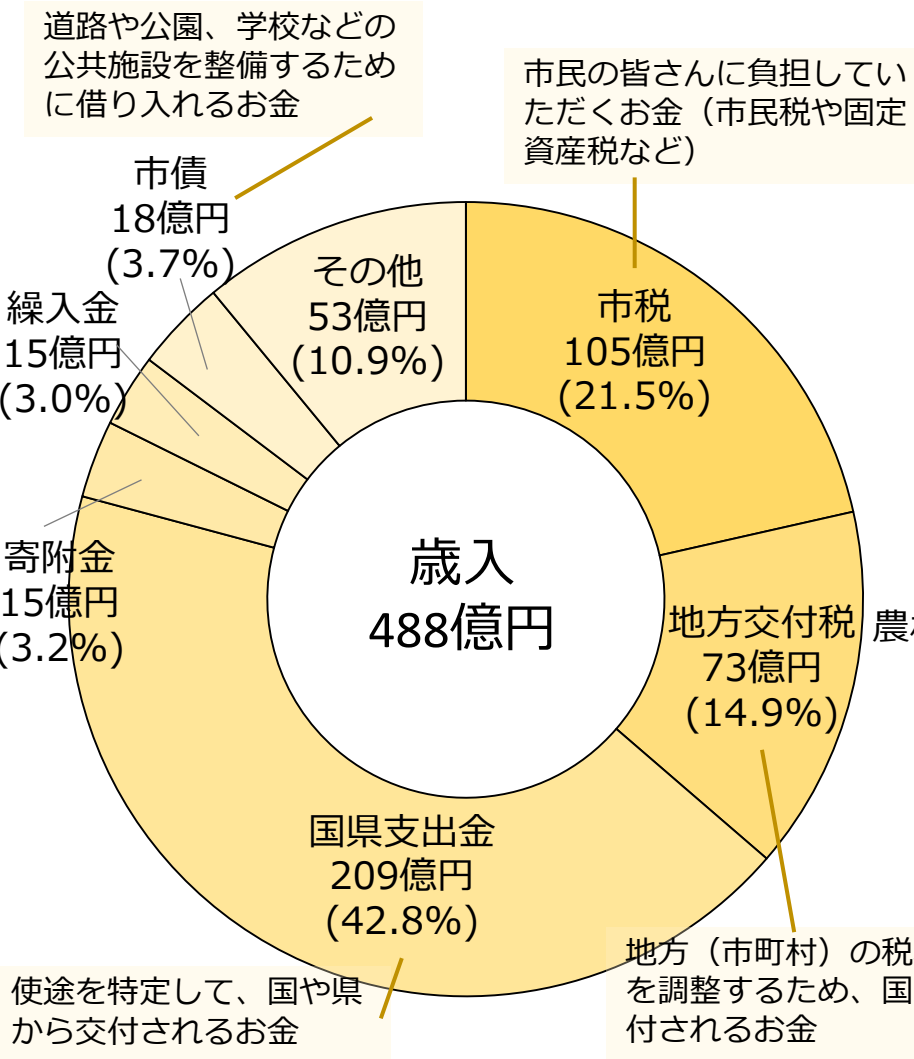
収入の種類や使い道などに応じて会計を分けることで、分かりやすく、収支が明確となるメリットがあります。



()の数字はそれぞれの会計数



一般会計決算額について



()の数字は決算額に占める構成比



一般会計決算額（特徴）について

新型コロナウイルス感染症関連経費により、歳入歳出ともに過去最大の決算額となりました。



歳入 488億円で、前年度に比べて111億円増えました。

市税（市民税・固定資産税など）は、105億円でした（前年度比 概ね横ばい）

国から交付された**地方交付税**は、73億円でした（前年度比 +1億円）

用途を特定して国や県から交付された**国県支出金**は、209億円でした（前年度比 +114億円）

全国から支援いただいた**寄附金**（ふるさと寄附）は、15億円でした（前年度比 +1億円）

基金（貯金）を取り崩した**繰入金**は、15億円でした（前年度比 +4億円）

金融機関から借り入れる**市債**（借金）は、18億円でした（前年度比 ▲12億円）

歳出 475億円で、前年度に比べて110億円増えました。

総務費（庁舎の管理費用や徴税、戸籍などに必要な費用）は、161億円でした（前年度比 +103億円）

民生費（福祉に必要な費用）は、147億円でした（前年度比 +8億円）

衛生費（保健衛生やごみ収集などに必要な費用）は、28億円でした（前年度比 概ね横ばい）

農林水産業・商工費（産業振興に必要な費用）は、27億円でした（前年度比 +5億円）

土木費（道路や公園の管理・整備に必要な費用）は、22億円でした（前年度比 ▲3億円）

消防費（消防や救急に必要な費用）は、12億円でした（前年度比 概ね横ばい）

教育費（教育や文化・スポーツの振興に必要な費用）は、37億円でした（前年度比 ▲4億円）

公債費（市が借り入れた借金の返済金）は、38億円でした（前年度比 +2億円）

令和2年度の新型コロナウイルス感染症関連経費は全体として**122億円**となりました。その中でも、主な事業を紹介します。

市民生活への支援

特別定額給付金給付事業費 **97.4億円**

- ・市民1人につき10万円を給付。

子育て世帯応援金給付事業費 **1.6億円**

- ・児童手当受給世帯に児童1人につき1万円の応援金を支給。
- ・ひとり親世帯に1世帯につき3万円の応援金を支給。

子どもの安全と教育の保障

GIGAスクール推進事業費 **6.3億円**

- ・タブレットを活用した教育環境を整備。

市立学校感染症対策事業費 **0.7億円**

- ・小中学校の児童生徒の学習机に飛沫防止シールドを設置。



感染防止対策



公共施設感染症対策事業費 **0.1億円**

- ・市役所や各地区コミュニティ・センターなどに体温検知カメラを導入。

保健一般事務費 **ほか 0.5億円**

- ・事業や公共施設での感染防止のため消毒液などを購入。

経済対策と事業者支援

緊急経済支援事業費 **7.2億円**



- ・小規模事業者には30万円の支援金を支給。
- ・プレミアム付き商品券の発行やクラウドファンディングを活用した事業者支援を実施。

高齢者施設等特別支援金給付事業費 **0.3億円**

- ・高齢者施設や障がい者施設などに10万円の支援金を支給。

宗像市の決算を家計簿におきかえてみると…

一般会計の歳入を年収480万円（月収40万円）におきかえたときの家計簿は次のとおりです。

収入（480万円）

給料 **市税、地方交付税等** 208万円
(17.3万円/月)

医療費や家の改修など
に対する助成金 206万円
(17.2万円/月)

家の改築のための
ローン（借金） 18万円
(1.5万円/月)

その他雑入 34万円
(2.8万円/月)

貯金から取り崩したお金 14万円
(1.2万円/月)

支出（468万円）

食費 **人件費** 42万円
(3.5万円/月)

医療や保育料など **扶助費** 96万円
(8万円/月)

ローンの返済 **公債費** 38万円
(3.2万円/月)

家の改修や車の買い替えなど **投資的経費** 24万円
(2万円/月)

光熱水費や電話代など **物件費** 61万円
(5.1万円/月)

家族への仕送りなど **繰入金、補助費等** 192万円
(16万円/月)

貯金 **積立金** 15万円
(1.2万円/月)

義務的経費

◆資産等の状況

預貯金（基金残高）201万円/ローン残高（市債残高）231万円

差引

+12万円（黒字）

※義務的経費とは…支出（歳出）のうち、必要となる見込みの金額が決まっていて、支出が義務付けられているため簡単に削減できない経費のこと。人件費や扶助費、公債費からなっています。この割合が高くなると家計に余裕がなくなってくる（財政の硬直化）を意味しています。



家計簿をもう少し詳しくみてみると… (10年前との比較)

10年前の平成22年度の「むなかた家」家計簿（宗像市決算）と比較すると、医療費（扶助費）に係るお金に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、仕送り（繰出金、補助費等）に係るお金が大幅に増えています。

支出は10年前と比べて166万円増えています。（平成22年度302万円→令和2年度468万円）

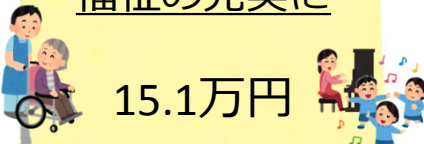
		10年前 (平成22年度)		現在 (令和2年度)	
収入	給料など (市税、地方交付税、使用料など)	196万円 (16.3万円/月)	➡	208万円 (17.3万円/月)	+12万円
	雑収入 (寄附金、財産収入、諸収入)	7万円 (0.6万円/月)	➡	22万円 (1.8万円/月)	+15万円
	貯金取り崩し (繰入金)	0円	➡	14万円 (1.2万円/月)	+14万円
支出	食費 (人件費)	37万円 (3.1万円/月)	➡	42万円 (3.5万円/月)	+5万円
	医療費など (扶助費)	48万円 (4万円/月)	➡	96万円 (8万円/月)	+48万円
	仕送り (繰出金、補助費等)	79万円 (6.6万円/月)	➡	192万円 (16万円/月)	+113万円



市民一人あたりのお金の使い道について 赤字は新型コロナウイルス感染症関連経費の主な内容


一般会計の決算額を市民一人あたり※に換算すると、**49万円**の市民サービスを行っています。 ※令和3年3月31日時点の住民基本台帳登録人口を使用

民生費
福祉の充実に
15.1万円



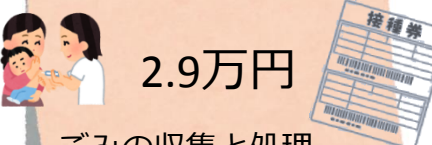
高齢者・障害者福祉、子育て支援など
+保育所・学童保育所等の感染症防止対策、高齢者施設等への特別支援金など

教育費
教育・文化の振興に
3.9万円




小中学校の運営、文化、スポーツの振興など
+学校の感染症防止対策、タブレットを活用した教育ICT環境の整備など

衛生費
環境・衛生の向上に
2.9万円




ごみの収集と処理
予防接種、環境保全など
+消毒液等の購入、新型コロナウイルスワクチン接種体制の構築など

土木費
道路・公園の整備と管理に
2.2万円




道路や橋、公園の管理など

総務費
市役所の管理や市政運営に
16.6万円



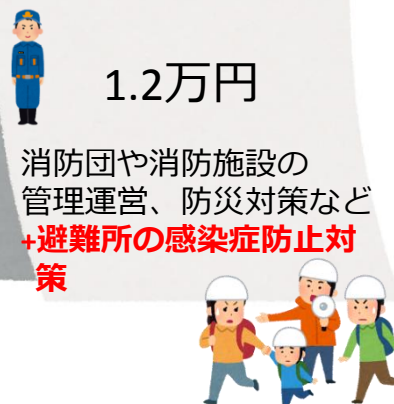
市役所の維持管理やコミュニティ活動など
+公共施設等の感染症防止対策、特別定額給付金、緊急雇用創出など

農林水産業・商工費
産業の振興に
2.8万円




農地や漁港の管理
農林水産業の活性化
商工業・観光の振興
+市内事業者への緊急支援金、一次生産者等への経営継続支援など

消防費
消防や救急に
1.2万円



消防団や消防施設の管理運営、防災対策など
+避難所の感染症防止対策

公債費
借金の返済に
3.9万円



市が借り入れた市債の償還元金と利子

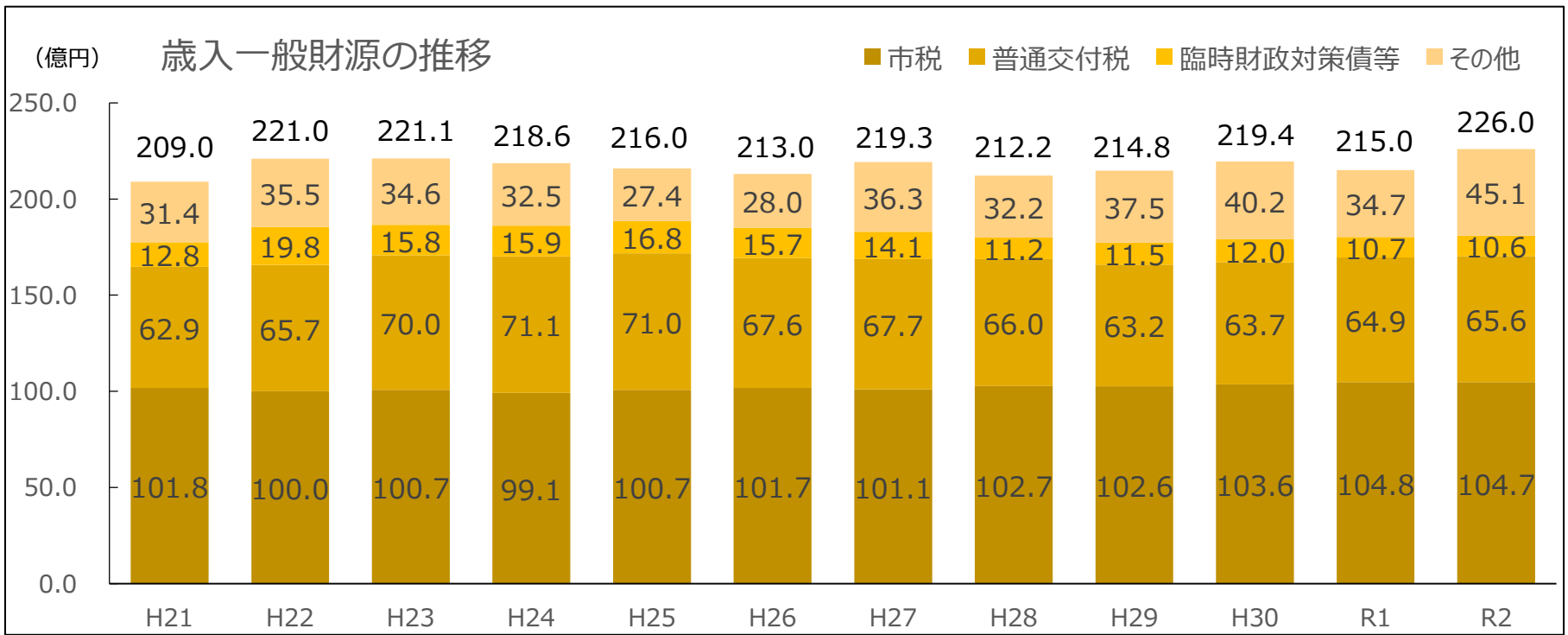


宗像市の財政状況について（収入）

収入（歳入）の一般財源は、ここ10年間はほぼ横ばいで推移しています。市の収入の重要な財源である市税は、毎年約100億円で推移しています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、市税のうち市民税（法人）は減少となりましたが、新築家屋の増から固定資産税が増加した結果、市税総額は前年度から0.1億円の微減となりました。

しかし、今後は、新型コロナウイルス感染症による市内経済への影響が継続し、厳しい財政状況が続くと予想しています。

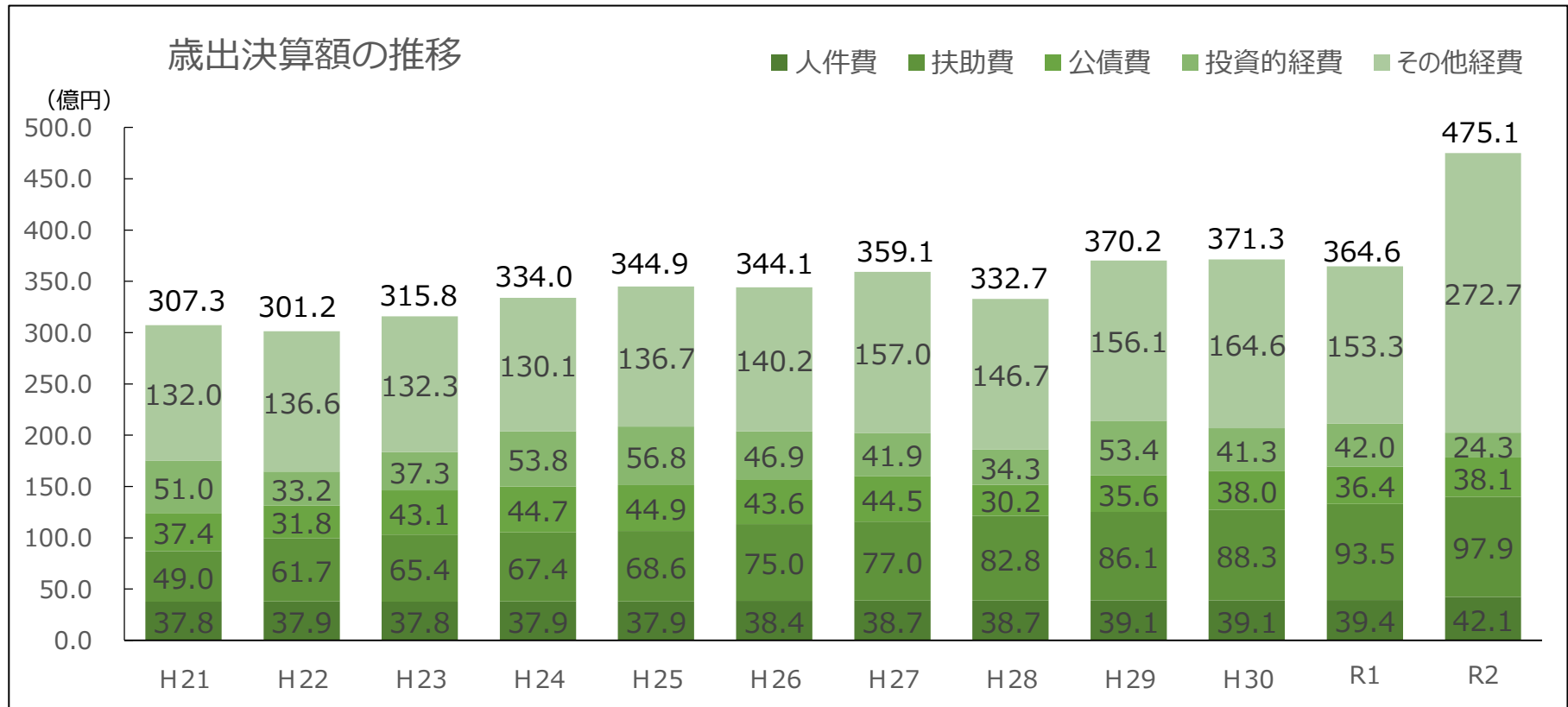


宗像市の財政状況について（支出）

扶助費の支出（歳出）額は、年々増加しており、収入に大きな伸びが見込まれない中で、新しい事業への投資に使えるお金が少なくなってきました。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症に対応するため、関連経費の支出が増加しました。令和3年度以降も新型コロナウイルス感染症の動向を注視し、適切に対応していきます。

※扶助費とは・・・医療や児童、高齢者、障がい者などに対する福祉のために必要な経費

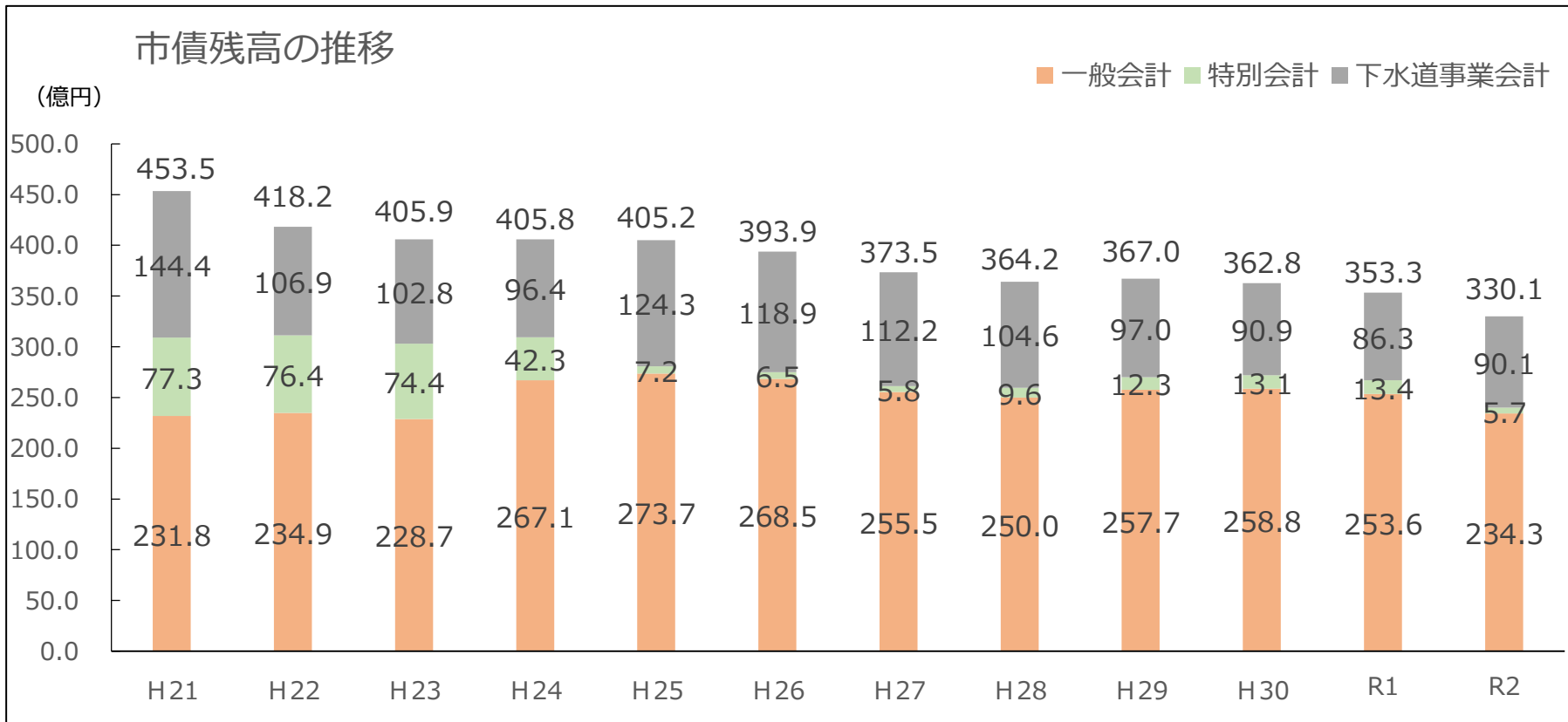




宗像市の財政状況について（市債）

宗像市が抱える借金（市債）は、約330億円です。 ※令和2年度末市債残高（全会計ベース）

道路や下水道の整備のほか、小中学校の改修やコミュニティ・センターの建設などに市債を活用して事業を行ってきました。何十年もの長期にわたり利用される公共施設は、将来世代の市民にも公平に負担してもらおう考えから借金（市債）をして整備を行っています。

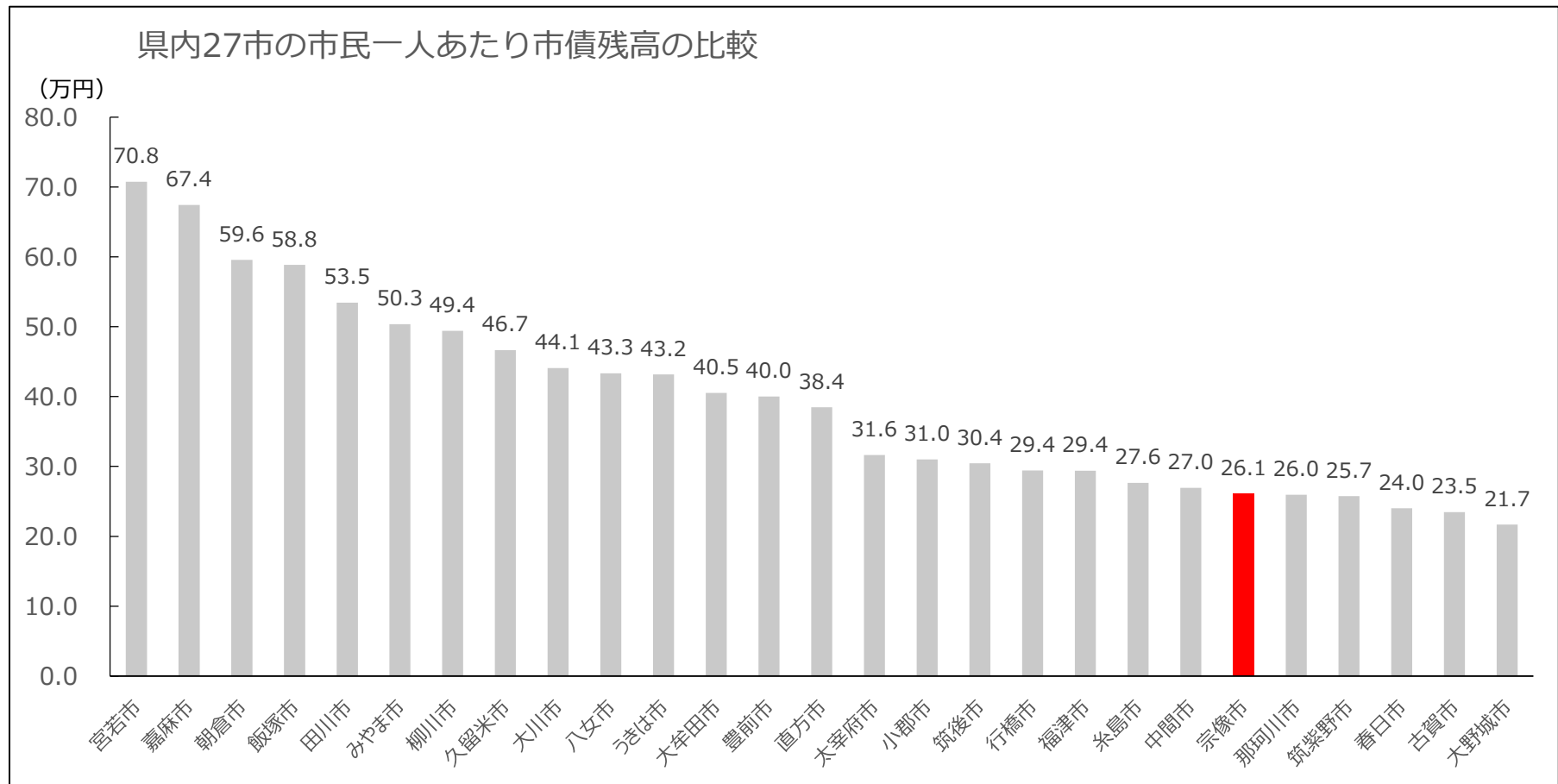


宗像市の財政状況について（市債）

宗像市の市民一人あたりの市債残高は、約26.1万円です。

※令和元年度市債残高（普通会計ベース）を人口（令和2年1月1日現在）で除した金額

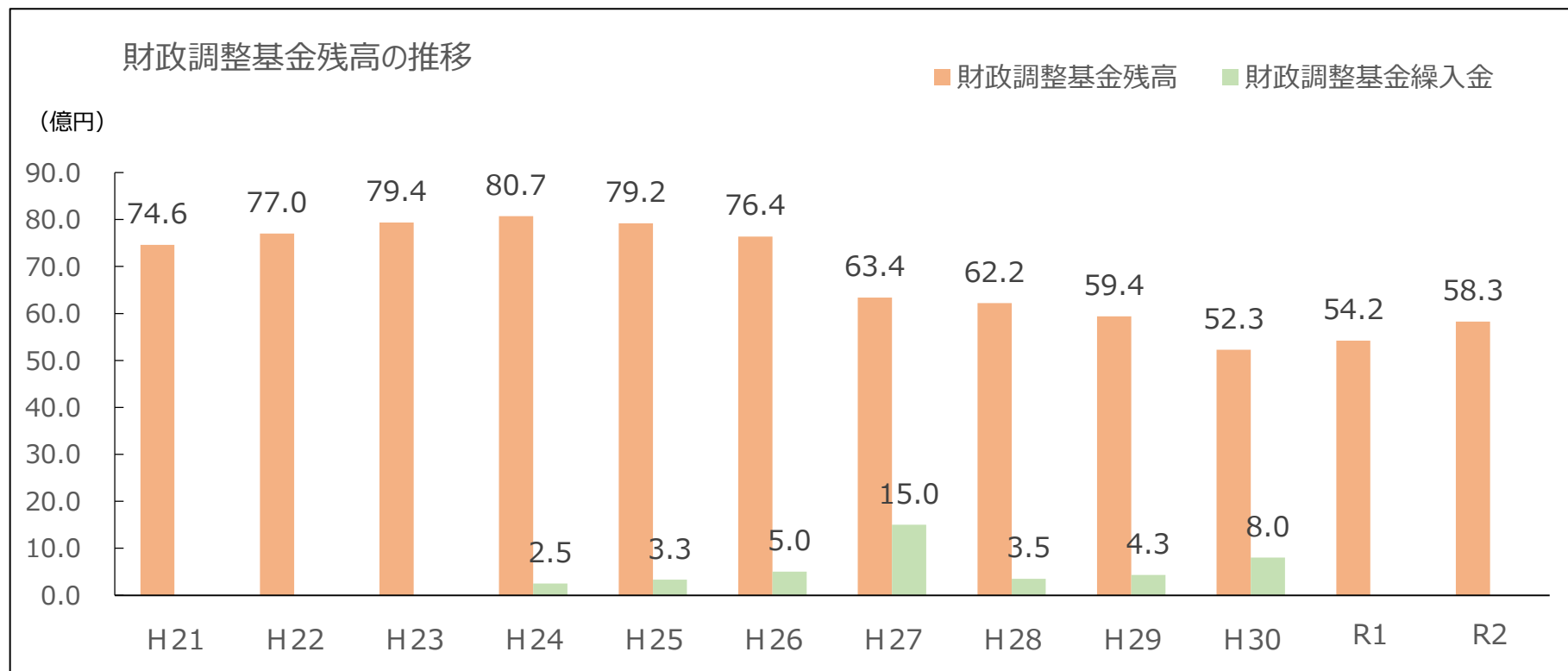
県内27市の他の市と比べても、低い水準（6番目）にあり、将来世代への負担は、比較的低い状況にあります。



宗像市の財政状況について（基金）

財政調整基金とは、市の財政運営において年度間の財源の不均衡を調整するための基金です。財源に不足が生じる場合においては、この基金を取り崩しながら財政運営を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症関連経費の補正予算の財源として、財政調整基金を取り崩す予定でしたが、結果的に国から補助金などが交付されたため、取り崩さずに済みました。そのため、前年度より4.1億円増加しています。

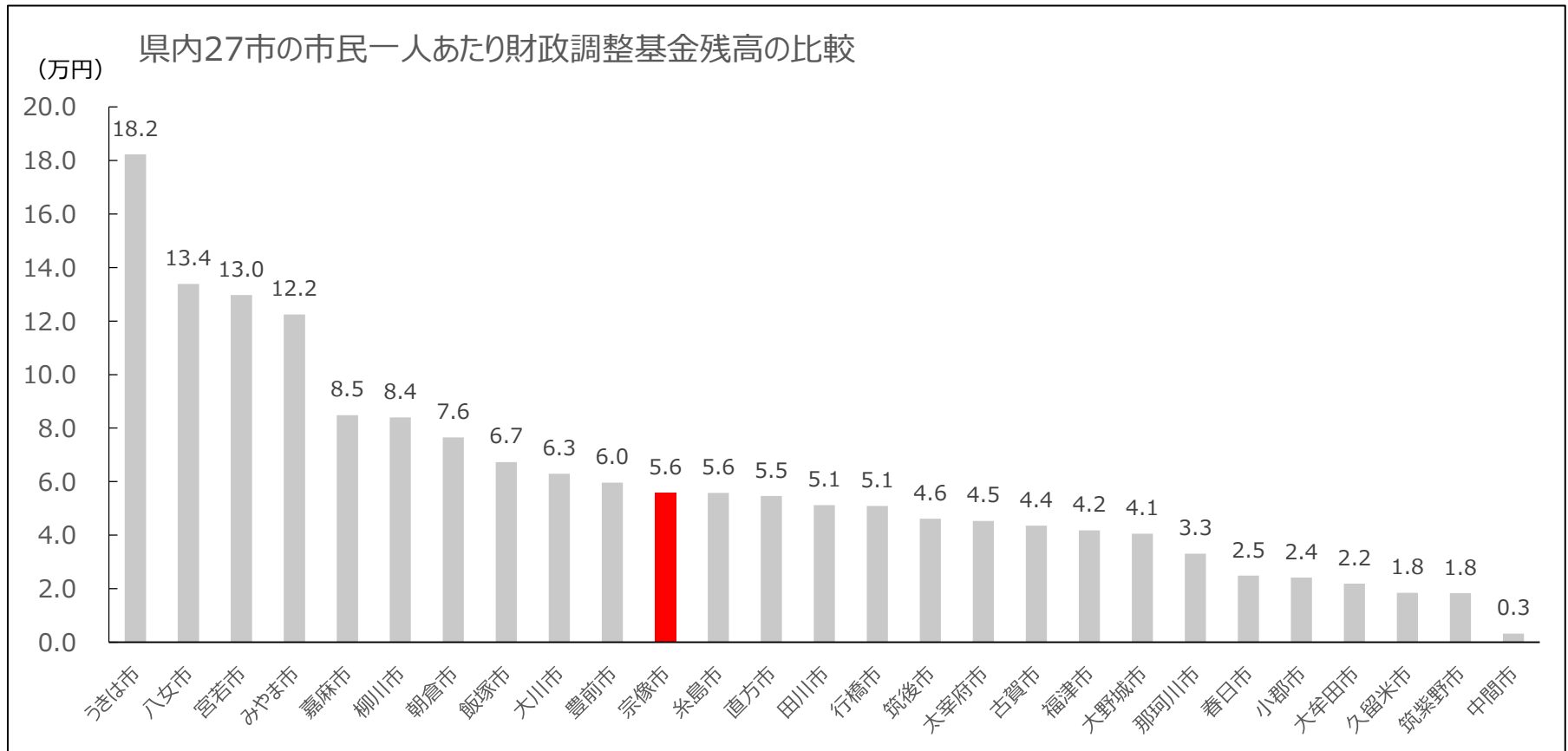


宗像市の財政状況について（基金）

宗像市の市民一人あたりの財政調整基金残高は、約5.6万円です。

※令和元年度財政調整基金残高（普通会計ベース）を人口（令和2年1月1日現在）で除した金額

県内27市の他の市と比べて、11番目に位置しています。新型コロナウイルス感染症などの不測の財政需要への活用を踏まえると、現状のように一定程度の残高維持に努める必要があります。



○今後の財政見通し

- ・ 長期化する新型コロナウイルス感染症への対応経費
- ・ 新たな日常に対応した行政サービスのデジタル化関連経費
- ・ 伸び続ける医療や福祉に必要な扶助費
- ・ 増加する国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療への公費負担
- ・ 公共施設等の老朽化に伴う施設の維持管理経費



今後は、新型コロナウイルス感染症などの不測の財政需要に対応しながらも、必要な行政サービスを停滞させることなく、行政運営を図っていく必要があります。そのため、行政サービスのデジタル化等による従来の行政サービスの手法を抜本的に見直し、行財政改革を図っていくとともに、緊急時でも揺るがない強固な財政基盤の構築と将来を見据えた財政運営に努めていきます。

老朽化に伴う公共施設等の維持管理については、宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画に沿った対策を図り、市民の安全性を最優先に確保しつつ、より効果的な施設の在り方を検証していきます。

宗像市の財政状況は市ホームページ
「市政情報」 > 「市の財政」でもご覧いただけます。

⇒ <http://www.city.munakata.lg.jp/>